

1 主題構成表

主題名「ともに生きる社会」（中学校第2学年）

資料名「迷惑とは何ぞ」

<p>■ 内容項目 C- [12] 社会参画・公共の精神</p> <p>社会参画の意識と社会連帯の自覚を高め、公共の精神をもってよりよい社会の実現に努めること。</p>	<p>■ 内容項目から見た生徒の実態（意識）</p> <ul style="list-style-type: none"> 一部のリーダーが真剣に学級のことを考えて行動しているが、自分で抱えてしまう傾向にあり、周囲に協力を求められない。 自分のやっていることや楽しさを優先させる生徒が学級の半数近くおり、仲間からの呼びかけに頼っている場面が多い。 リーダーの思いに自分から応えようと考えている生徒が半数いるが、大きな声で呼びかけをとなげたり広げたりすることがない。 <p>（要因）</p> <ul style="list-style-type: none"> 仲間を頼るとその人に負担をかけてしまう、迷惑になってしまうという思いがある。 人よりも多くの仕事をすることを損であるとする傾向にあり、積極的に社会と関わろうとする意識が希薄である。 自分がリーダーの思いに応えて動くことはできるが、他者と関わっていかうとする思いが少ないため、その動きを広められない。 	<p>■ 資料の分析</p> <ul style="list-style-type: none"> 「車輪の一步」という映画を通して筆者が語る「迷惑」についての考察からねらいに迫る資料である。 映画に登場する車椅子の少女の、変容していく心の動きに着目することで、社会における「迷惑とは何か」について深く考えることができる。 「迷惑をかけない」ことの裏側に、「人に協力したくない」という冷酷さが潜んでいないかという筆者の指摘は、とかく「自分には関係ないこと」として人とかかわりを避け、面倒なことを素通りしようとする現代人に社会連帯の大切さを強く訴え、自己の生き方在り方を深く考えさせるものである。
--	---	--

<p>■ ねらい</p> <p>階段下で叫ぶ少女の近くを通り過ぎたり、少女を助けたりした人々の心情を考えることを通して、社会連帯の自覚を深め、互いにいたわり助け合う、よりよい社会をつくろうとする道徳的实践意欲を培う。</p>
--

<p>■ 展開の構想</p> <ul style="list-style-type: none"> 声をかけられたが素通りしていく人の心情を考えることを通して、自分がやっていることを優先させてしまう心の弱さに共感させる。 何度も声をかけた少女を助け、階段の上まで運んだ人の心情を考えることを通して、自分の時間を使ってでも困っている人を助けることを選ぶ「誰かの役に立とうとする思い」を共感させる。 諦めずに声をかけ続けていた少女の心情を考えることを通して、「きっと誰かが助けてくれるはずだ。」と見ず知らずの誰かを信頼していたことに気づかせる。 「学級の一員として」の自分自身を振り返ることを通して、自分が学級の一員として仲間を信頼していた事実や相手の立場に立って行動していた事実気づくことができる。 	<p>■ 基本発問（◎中心発問）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○勇気を出して声をかけている少女の近くを知らぬ顔で行き過ぎた人は、どんなことを思っていたらう。 ◎少女を階段の上まで運んだ人たちはどんな思いから行動に移したのだろうか。 ○何度も声をかけても行き過ぎられたのに、最後まで声をかけ続けられたのはなぜか。 ○学校生活の中で「学級の一員として」相手の立場に立って行動にうつしたり、仲間を信じて行動し続けたことはあるか。今後どうなっていきたいか。
--	---

<p>■ 「私たちの道徳」の活用（ 授業前 ・ 授業中 ・ 授業後 ・ 活用しない ）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ P149 つながりを持ち住みよい社会に 黙書の時間に記述する
--

2 学習指導過程

	基本発問と予想される生徒の反応	指導・援助
導入	<p>○仲間ってありがたいなと思った時はありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活で悩んでいるとき励ましてくれた。 ・一緒に呼びかけてくれた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・仲間の存在を意識した場面を想起することで、本時学習する人とのかかわりについての前向きなイメージをもたせる。
展開前段階	<p>◇資料提示(教師による読み聞かせ)をする。</p> <p>◇着目した(線を引いた)場面を交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・階段で叫ぶ少女の場面 <p>○勇気を出して声をかけている少女の近くを知らぬ顔で行き過ぎた人は、どんなことを思っていたらう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分は忙しいから無理だ。 ・手伝いたくても自分では難しそう。できる人に… ・自分がやらなくても誰かが手伝うはず。 <p>◎少女を階段の上まで運んだ人たちはどんな思いから行動に移したのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・きっと困っているから助けてあげたい。 ・1人では難しいけれど、力になれることがあるはず。 ・このままでは困るだろう。助けてあげなければ。 ・自分だったら手伝うために声をかける。黙っているなら気付かないけど、「助けてほしい」と言っている人を放っておくことはできない。 ・私は助けたいとは思いますが、行動に移せるかどうかは自信がない。助けてもらえないとつらいのは分かるけど、周りの目が気になって行動に移せないかもしれない。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【深めの発問】 何度も声をかけても行き過ぎられたのに、最後まで声をかけ続けられたのはなぜか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・もしかしたら誰かが助けてくれるかもしれない。 ・きっと誰かが自分の思いを分かって助けてくれるはずだと信頼していたから。 	<ul style="list-style-type: none"> ・車椅子の少女のことについて考えていくため、その場面の中で少女のことをすごいと感じた場面1か所に線を引かせる。 ・知らぬ顔で行き過ぎた人の思いを考えることで、困っているのは分かるが、自分の都合を優先させて通り過ぎることを選ぶ「他者よりも自己を大切にする心の弱さ」を共感させる。 ・少女を運んだ人の思いを考えることで、相手の立場に立って、自分の時間を使ってでも困っている人を助けることを選ぶ「誰かの役に立とうとする思い」を共感させる。 ・両方の立場や思いを考えたと、「もしあなたがその場にいたら、どんな行動をとりたいですか?」とシミュレーションさせることを通して、【相手の立場に立って考え、行動すること】の大切さと難しさに気付かせる。 ・【深めの発問】 この発問をすることによって、社会の人々の温かい心を信じているから、どれだけ不安になったとしても諦めずに働きかけ続けた少女の思いに迫る。見ず知らずの人でも信頼して諦めなかった少女と「負担になるから」と言いながら仲間を信じ切れずに頼れなかった自分を比較して、頼るためには信頼していることが大切であることをつかませたい。
展開後段階	<p>○学校生活の中で「学級の一員として」相手の立場に立って行動にうつしたり、仲間を信じて行動し続けたことはないか。今後どうなっていきたいか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いつも呼びかけてくれている仲間の声に応えるためにすぐに行動をするようにしている。でも、まだ呼びかけられてから動く場面が多いので、学級委員がどんな思いで呼びかけているのかを考えて自分から行動したい。 ・いつも学級の仲間に声をかけているけど、応えてもらえないと嫌になる時がある。でも、これからはきっと応えてくれると信じて諦めずに声をかけ続けたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会の中の一員として動くことを求められる機会は少ない。まず、自分の学級の一員として行動ができた場面であれば想起しやすいと考える。そこで、【学級の一員】と場面を限定して書かせる。 ・どちらの立場であっても、今後どうなっていきたいかというところまで考えて書かせる。 ・相手の立場にたって行動した生徒と仲間を信じて行動し続けた生徒を机間指導の中で確認し、全体の前で話をさせる。
終末	<p>◇教師の話聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・4月からの学級経営の中で価値に関わる行動をとっていた姿を紹介し、広げる。

○迷う

- ・声をかけるのが恥ずかしい
- ・できることがないかもしれないから不安

○助ける

- ・困っている人を 見捨てたくない
- ・自分にできることを探したい

自分だったら…

十幾段の階段を
上まで運んでくれる人

- ・助けてあげたい
- ・きっと困っている
- ・ちよつとでも力になりたい

【車いすの少女】

誰か私を、
あの上までつれて行ってください。
知らぬ顔をして通り過ぎる。

7/12 迷惑とは何ぞ
仲間：困っているとき
一緒に活動

板書計画

相手の立場に立って考え、
自分から動く

信頼して働きかけ続ける

3 道徳の時間（本時）と他の教育活動との関連

<場の内容・ねらい>

<生徒の意識>

<指導・援助>

学級活動

- ・毎日の生活では、学級のために積極的に行動した姿や学級目標に向かい、成長しようと努力した姿から良さ見つけを行う。
- ・学級活動「前期前半の財産」
仲間との関わりを通して築いた財産を確認し合う。

- ・2Eの成長は、毎日少しでも学級が「日進月歩」できるように働きかけ続ける学級委員やリーダーのおかげだ。
- ・教科係や委員の中でも、自分の役割をちゃんと果たしてくれる仲間の存在が自分たちを支えてくれている。そういう仲間のために頑張ろう。

- ・学級委員の話の裏にある思いを教師の話の中で確認していくことで、言葉だけでなく真剣に学級の成長を願っていることを伝えていく。
- ・生活記録を通して捉えた生徒の小さな決意や変化をリーダーに伝えていくことで、孤独感・無力感を軽減させていく。

各種取組（行事や日常活動など）

- ・行事に向けての取組の振り返りや行事の振り返りでは、学級の約束を意識した姿や仲間を大切にした姿からその取組や行事で築いた財産は何かを明らかにする話し合い活動を行う。
- ・朝・帰りの会
班会議を位置付け 1日の自分たちの姿や成長を振り返ったり、学級委員の話で具体的な仲間の姿を価値づけたりすることで、次の日につなげていく。

- ・文化の取り組みを通して僕が成長できたのは、一生懸命かかわった班長のおかげだ。そうやってかかわれる班長のSさんはすごいな。私にもできることがあれば支えていきたいな。
- ・I君は静かだけど、移動教室でいつも一番先に教室に戻り、教室を出ていく。それは毎朝学級委員が話している目標を意識してくれているからだ。彼のような存在はすごくうれしいな。

- ・生活記録には必ず目を通して、生徒の小さな成長をつかんでいく。また、個別に話を聞くことによってその変化を支えた生徒の存在をつかみ、学級に広げていく。そして、真剣な思いやかかわりは仲間の意識を変え、成長させることができることを広げていく。
- ・空き時間はできるだけ生徒につき、頑張る姿や仲間に関わって学級を良くしようとしている姿を見つけ、短学活で価値付ける。

道徳の時間

資料名『迷惑とは何か』

内容項目 C- (12)

社会連帯の自覚を深め、自己も努力をした上で、互いにいたり助け合う、よりよい社会をつくろうとする道徳的実践意欲を培う。

- ・これまでは誰かに頼ると迷惑になると思っていたけど、これからは少しずつでも仲間に頼ってみよう。
- ・呼びかけをしてくれる人は真剣に考えているし、呼びかけて応えてもらえないと苦しい気持ちになる。自分はあまり頼りにならないかもしれないけれど、一人くらいなら声をかけられるかもしれないから、やってみよう。

- ・よりよい社会を創るために人を頼ることは迷惑ではないこと、そして、自分にできることを積極的に精一杯やるのが仲間を支えることにつながることを共有することで、「社会参画」の意識を高められるようにする。

学級活動（今後の取組）

「学年学級財産交流会」

「体育祭の約束決め」

- ・日常生活や行事など、いろいろな場で成長した学級の財産を学年の前で発表をする。
- ・苦手な仲間も巻き込んで体育祭を前向きにできるように学級の約束を決めていく。

- ・前期の自分は受け身なことが多くて、呼びかけられてからしか動けていなかった。きっとリーダーの負担になっていた。去年の体育祭も合唱祭も仲間につられて動いていたから最初から全力でできなかったし、リーダーも困らせた。今年は自分から取り組んで、リーダーを支えていきたい。

- ・生活記録や願いの文章などから、自分から変わろうとしている生徒や、ささいなことであっても仲間を支えようと動いている生徒をつかみ、その思いを学級に広げる。
- ・短学活の教師の話の中で、生徒相互に頑張っている姿を価値付けさせることで自己有用感を高める。